

寒さも今がピーク。朝夕は少しずつ夜が短くなってきていることに気づかされるこのごろ。春はもうすぐそこまで来ています（半分願望）。現在会員登録数2,864人さま。本年もどうぞよろしくお願いいたします。次号は2月20日発行の予定です／

十-----◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----十

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》読書活動ボランティアのためのワンポイント 101

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

■-----■

【1】お知らせ

● 「日産 童話と絵本のグランプリ」受賞作品原画展

当財団主催「第34回 日産 童話と絵本のグランプリ」（平成29年度実施）の入賞作品の原画展を開催しています。

日 時：開催中～3月10日（日）＊ただし、国際児童文学館の開館日時

場 所：大阪府立中央図書館 国際児童文学館（東大阪市荒本）

入場料：無料

3月上旬に予定している第35回（平成30年度実施）グランプリの発表後は、新しい入賞作品の原画に展示替えします。（～3月24日（日）まで）

詳細は→ http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

● 当財団公式 Twitter → https://twitter.com/IICLO_News

■-----■

【2】コラム

■-----■

《1》この本読んだ？ Yasuko's & Takeo's Talk

『ゆかいな床井くん』戸森しるこ/著 講談社 2018年12月 対象年齢：小学校高学年以上

あらすじ：背が高く、誘われない限りトイレは一人で行く主義の暦（こよみ）が、6年生になって隣の席になった床井（とこい）くんと仲良くなって一年を過ごす様子を描いた作品。暦と床井くんが知り合う「暦と歴」、級友のトーヤが教育実習の先生に思わず「巨乳」と言ってしまう「おっぱいについて」、暦が、おしゃれな級友のハネリカにキーホルダーを取ったと疑われる「失われた羽」など、12の短編の連作集になっている。

Y：小学6年生の微妙な気持ちをさわやかかつ、丁寧に描いた本が出ました。

T：そして、ユーモラス。その一つに、言葉遊びがあります。

Y：タイトルからして「ゆかいな床井（とこい）くん」だけど、「ゆかいくん」とも読めます。

T：そして、暦の髪が長くて「ロングロングヘアー」、床井君は、あごが長くて「ロングロングアゴー」というのもあります。けれど、実はこれはただのダジャレというだけではなくて、暦のお母さんが双子と一緒に暮らしており、暦には妹みたいなところがあるというような作品内でのダブルイメージと重なっているところがおもしろい。

Y：本当に。作品の中で、暦は級友を観察し、一緒にトイレに行くとか、おそろいがいいとか、人と違うことをどう思うとかということについて考えます。言葉の二重性は「似ているけど、違う」「違うけど、似ている」ことを発見していくことともつながります。

T：そして、クラスで起こるちょっとした諍いや、気持ちの擦れ違いに対する床井くんの反応が暦の考えを深めます。床井くんは、正義ぶっていないけれど、本当の筋を通すことを言うてくれて、暦も読者も腑に落ちる。それがすがすがしい読後感につながりました。

Y：外見、性、偏見、友だち、家族、淡い恋など、思春期独特の悩みが描かれていて、それに対して暦が「～かな」と疑問を持ち続けるところもおもしろかったです。暦が人によっていろいろな名前と呼ばれることで、暦も読者もアイデンティティについて考えられるようになっていたと思います。

T：夏休みに、暦といとこのなごみちゃんと、床井くんと教授と呼ばれている級友が自動販売機のある場所で何度も出会う場面があり、最後に自動販売機の故障でそれが終わります。その時、「ちょっとさみしい。でも、これでいいのだ、という気もした。」という暦の言葉が、成長のさみしさを描いていて、新美南吉を思い出してしまいました。

* 今回のゲストは当財団の宮川健郎理事長（T）です。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第41回「猫の事務所」その2

語り手の「半分同感」が示すもの

前回に続き、「猫の事務所」を取り上げます。

小倉豊文は、この作品について〈小動物の世界をかりた「役人根性」に対するユーマーと諷刺たっぷりな好個の寓話であり、「お役所風景」のカリカチュア〉（角川文庫版『セロ弾きのゴーシュ』解説、1957年）と述べています。気になるのはその寓意ですが、物語は個性的な〈猫〉たちによって展開します。

登場する猫は、黒猫、白猫、虎猫、三毛猫、竈猫（かま猫）、ぜいたく猫、夏猫、冬猫などで、種類も表現も実に豊富です。

さて、そのなかで主人公ともいえる〈かま猫〉とは、〈生れ付き〉ではなく、〈夜かまどの中にはいつてもねむる癖があるために、いつでもからだは煤でできたなく、殊に鼻と耳にはまっくろにすみがついて、何だか狸のような猫のこと〉です。容貌の醜さを理由に周囲からいじめられる構図は、「よだかの星」などとも通じる部分がありますが、出生や出自にかかる事柄で不利益を受けるのは、一般社会の縮図ともいえます。

個人の責に帰すことができないどうしようもないことでつらくあったり、またそうした状況に異を唱え、差別されるマイノリティの側に立つ人が些細なことでもいかに脆く豹変するかを、この物語は語っています。

事務所を廃止した獅子の命令は差別を否定するものであり、語り手の〈ぼくは半分獅子に同感です〉という言葉は、その判断に一定の理解を示しています。しかしその一方で、語り手は残りの半分では納得し得ない心情を吐露します。獅子による〈上からのご命令〉は、事務所内の差別を一時的に解消したものの、かま猫やその仲間がこれからも負うであろう根源的なつらさ、不条理まで解決したわけではないからです。

さまざまな差別や搾取に対し、多様な切り口で作品化してきた賢治。「半分同感」という言葉は、こうした問題解決の難しさを示しています。対症療法でも半分支持せざるを得なかったところに、賢治の苦悩が垣間見えるようです。（ペ吉）

（本文の引用は、角川文庫版『セロ弾きのゴーシュ』によりました。）

《3》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 101

その11 さまざまなご質問にお答えします（19）おはなしについて3

質問：昔話を語る時、書かれている言葉をそのまま覚える必要がありますか。

（前回のつづきです）

前回は、言い回しを変更する場合について考えましたが、今回は、言葉を変える場合について考えたいと思います。

たとえば、「なら梨とり」（『おはなしのろうそく6』 東京子ども図書館編）に「ふくべ」が出てきます。おそらく、ほとんどの子どもが「ふくべ」が何かを知らないでしょう。そこで、いくつかの選択肢があります。

- 1 ふくべが何かわからなくても、大きな木の枝にぶらさがっているとあり、「からから」という音が鳴るものということはわかるので、そのまま語る。
- 2 おはなしを語る前に、「お話にはふくべが出て来るが、ひょうたんのこと」と伝える。
- 3 おはなしを語る前に、ふくべの写真を見せておく。
- 4 おはなしを語った後に必要と思えば、ふくべについて説明する。
- 5 おはなしの中で最初にふくべが出てきたときに、「ふくべ、ひょうたんと

もいます」と入れる。

6 ふくべはひょうたんのことなので、「ひょうたん」と言い換える。

どれを選ぶかは語り手の作品の解釈と聞き手の状況によって変わります。まず、このお話の中で、ふくべは重要な意味を持っています。笹、ふくべ、カラスが、太郎、次郎、三郎に道を教える役目を負います。ですので私としては、できれば、ふくべが何か子どもにわかってほしいと思います。

2や3でもいいとは思いつつ、ふくべは大切といっても、一番重要ではないので、冒頭に説明したり写真などを見せたりすると目立ちすぎるようにも思います。また、4は、おはなしの余韻を損ねないか心配になります。そこで、私は、少し年長の子どもには、5のようにさらっと語ることによって、「ふくべ」という言い方が日本語にあったことを伝え、その音の豊かさを感じてもらいたいと思います。一方、年少の子どもにはよりわかりやすいように、「ひょうたん」と言い換えてしまっています。同じ話を「ひょうたん」で再話している資料もあるので大きな問題はないかと考えています。とはいえ、ひょうたんを知らない子どもも増えている現状でこれでいいかは悩むところです。

正しい答えがあるというのではなく、選択肢の中から判断する際に自分の納得する理由を考え、語りを聞く子どもたちがそのおはなしのおもしろさを味わえるにはどうすべきかを定めることが大切だと思います。また、語りは聞き手とのコミュニケーションですので、その場の雰囲気でも判断することも必要であると思います。

*次号は「その11 さまざまなご質問にお答えします(20)」の予定です。引き続き同じ質問について考えます。ぜひ、ご質問やご意見をお待ちしております。(Y)

《4》 行って来ました！

神戸ファッション美術館で3月24日まで開催されている「息を呑む繊細美切り絵アート展」に行ってきました。この展覧会では、日本を代表する切り絵作家11人の作品が約110点展示されています。

現在、「切り絵」とは何か厳密に定義されてはならず、切り絵、影絵、貼り絵、ペーパークラフト、ペーパーアートなどいろいろなジャンルがあるそうです。技法も、下絵の紙を重ね合わせて切る、原紙に直接下絵を描いて切る、何枚も色紙を重ねて彫るように切る、色付けした和紙を裏から貼って彩色する、はさみで切る、カッターナイフで切る、光の当て方で一つの絵の場面を変化させるなど、作家によってさまざまです。作家ごとにつけられた、本人による切り絵に対する思いのこもったメッセージに情熱を感じました。

蒼山日菜の「レース切り絵」と呼ばれるはさみで切った作品は、とても繊細でおしゃれな雰囲気です。蝶は飛んでいるように、鯉は泳いでいるように見えるのが不思議です。井出文蔵の作品は、「一寸法師」など民話が題材になっており、「切り絵」と聞いてイメージするような素朴な持ち味があります。倪瑞良の縦110cmを超える、神話の世界を描いたような大きな作品は迫力満点で、草花や羽を描いた渦のような曲線の細密な背景に、人物が浮かびあがってくるように思えて、ずっと見ていたい気分でした。

制作過程を想像し、タイトルどおり、思わず息を止めてしまいます。切り口の線の美しさで、周りの空気がピンとはりつめているように感じました。(K)

■ ----- ■
【3】全国のイベント紹介
■ ----- ■

●大阪府子ども文庫連絡会 公開講座

「知ろう！つくろう！たのしもう！ ヒトは人に育てられて人になる」

講師：藤田浩子（幼児教育者・語り手）

日時：2月12日（火）午前10時～11時45分 講演会

午後1時～3時 交流会

会場：大阪市立中央図書館 5階大会議室（大阪市西区北堀江）

定員：250人 交流会は100人（当日先着順、申込み不要）

参加費：無料 * 午後の交流会は手作り材料費：200円

主催：大阪府子ども文庫連絡会 共催：大阪市立中央図書館

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

■ ----- ■
【4】プレゼント
■ ----- ■

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『ゆかいな床井くん』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガN0.101プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は2月12日（火）、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

— | — | — | — | — | — | — | — | — |

年末年始は寒波襲来との長期予報がありましたが、過ぎてみれば穏やかなお正月でした。しかし、インフルエンザの猛威の拡大や、風疹で非常事態宣言が出ている地域も。手洗いうがいは言うに及ばず、人ごみでのマスク着用、十分な睡眠と栄養補給に心がけましょう。(TA)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL : 06-6744-0581 FAX : 06-6744-0582 E-mail : office@iiclo.or.jp
